

# 季報

二松学舎大学附属図書館  
quarterly report



郭沫若『甲骨文字研究』より

## 目次

- ❖ P2 人と大地と時間軸 島田泰子
- ❖ P3 研究ノート「職務発明の特許は誰の権利」 中山政義
- ❖ P4 私の一冊 —— 『定本 北條民雄全集』東京創元社版 荒井裕樹
- ❖ P5 電子書籍サービス開始
- ❖ P6 柏市立図書館・市内4大学合同企画  
知的書評合戦ビブリアバトル開催/  
大学資料展示室リニューアルオープン
- ❖ P7 本学教員寄贈図書一覧
- ❖ P8 図書館だより

No.91

2015(平成27)年  
3月

## 人と大地と時間軸

文学部 国文学科 教授 島田 泰子

「地図」は、昔からほんのりと好きだった。地図マニアと呼ばれる人たちのように詳しくたり入れ込んだり蒐集したりはなかったものの、方位の示されない案内図の類に軽い殺意を覚えたり、ナビゲーションシステム普及前によくいた「人が運転中に、助手席で道路地図を逆さまに持ってカーブの度にぐるぐる回すナビ男」に幻滅したりするくらいには、地図に親しんでいた。

土地の来歴というものにも、個人的には興味・関心がある。街のメインストリートが元滑走路だとか（練馬区光が丘）、住宅地のカーブを描く道路が元競馬場だとか（目黒区ほか）、暗渠の上に商店街が発達（霜降銀座・戸越銀座ほか）とか、いまの姿につながるさまざまな経緯と事情を知ると、軽く萌える。単なるトリビアにとどまらない「腑に落ちる」感じが好きというものもあるが、それだけでもない。日本語の歴史の変遷を扱う身としては、今日的な日本語の姿、現代語における諸現象を捉えるのに、史的経緯の関与が決して排除できないことを、つねづね痛感しているからだ。「何がどうしてこうなった」問題は、あらゆる分野においてガン無視できるものではない。人に歴史あり、ことばに歴史あり、大地に歴史あり。『東京文学散歩』(新典社)で、自分が担当した章を大地と道と建物の来歴に注目した内容にしてみたのも、そういう思いからだ。

そんな私が、最近「東京スリバチ学会」に出入りさせてもらうようになった。スリバチといっても、スリコギとセットで使う調業・調理用具ではなく、東京特有の凸凹地形の愛称である。関東ローム層が河川の流水などに削られて出来た谷を、その形状からスリバチと呼び、周辺の坂や崖を自らの足で踏みしめ観察して、大地に流れた時間の積み重ねとそのような地形と関わってきた先人の営みに思いを馳せる。それが「東京スリバチ学会」のフィールドワークだ。街歩きや地形ブームの火付け役ともなり（各メディアで盛んに取り上げられ、関連書籍も刊行ラッシュ）、教育や研究の場での応用、町おこしにつながる活動などが評価されて、2014年のグッドデザイン賞を受賞している（C5-3カテゴリ：都市作り、地域づくり、コミュニティづくり）。

いま書いたとおり、「学会」といってもお堅いアレではなく半分はシャレで、その実態は、フィールドワーク当日現地に集合すれば誰にも参加が許される、きわめてオープンな会だ。いわゆる「学者」で構成される組織ではなく、参加者も、生保や金融関係のお勤め人から編集者、デザイナー、キュレーターまで「話を聞く紳士」

と「地図の読める淑女」が幅広く集まり、多士済々の大所帯となる。その懐の深さは、タモリ倶楽部にもよくご登場の会長・皆川典久氏のお人柄さながら。しかし半分シャレということは、残り半分はマジ。土木・建築関係者、地質学の専門家、住宅販売に関わる方など、ガチな本業の人たちもまた多い。皆それぞれ何らかの専門性を持った人たちで、いろいろと教わるのがたくさんあり、ともすれば狭い世界に閉じこもりがちな研究者としては、新たな視点を獲得する貴重な場ともなっている。自分の専門と一見直接関係なさそうな分野であっても、「まなざし」のヒントになる洞察に満ちた営みに触れることは、知的に愉快的な経験で、「勉強になります」を超えた極上の楽しみでもある。その意味で、皆川会長のご著書『凹凸を楽しむ東京スリバチ地形散歩』(洋泉社)は、学生諸君にも文句なしのお薦め図書だ。

「土地の記憶」に刻まれた、大地と人との関わりの歴史。地図の持つ表象性における記号論的ななにか。地形のアフォーダンスと土地利用。スケールという汎用的な概念。それらをメタ的に捉える視点は、とても人文的である。人間が、人間をとりまく外界のあらゆる事象とどう関わるか、あるいは関わってきたかを大まじめに扱うのが人文科学であるからだ。その意味で、「東京スリバチ学会」の副会長でもある石川初氏の『ランドスケール・ブック 一地上へのまなざし』(LIXIL出版)も強力に推しておきたい。石川語録とでも呼びたい至宝の名言の数々は、いずれも含蓄に富んで印象深い。私がおっとも共感を覚えつつしびれたのは「歴史のない土地はない。風景は経緯や事情の重層である。」(49ページ)という一節。言語と同じ、言語も同じだ！ 歴史のない言語はない。眼前の風景として目に映る現代語の用法は、経緯や事情の重層なのである。



左：石川 初『ランドスケールブック 一地上へのまなざし』  
右：皆川典久『東京「スリバチ」地形散歩』2  
いずれも架蔵本（どちらも著者のサイン入り♪）、撮影島田。

## 研究ノート「職務発明の特許は誰の権利」

国際政治経済学部 国際政治経済学科 教授 中山 政義

2014年12月、ノーベル賞の授賞式がスウェーデンのストックホルムで開催され、赤崎勇（名城大教授）、天野浩（名古屋大教授）、中村修二（カリフォルニア大サンタバーバラ校教授）の3氏が物理学賞を受賞した。3氏が開発した青色発光ダイオード（LED）は、製品化されてから20年余りがたっているのに、すでに生活の中で使われており身近なものとなっている。LEDは、白熱電球と違い、電気を直接光に変えるので効率がよく、劣化も少なく寿命が長いので、照明だけでなく薄型テレビの部材などにも幅広く利用されている。

この「LEDの研究により、日本の学者がノーベル賞を受賞した」とのニュースは、日本の研究者の業績が世界で認められた嬉しい出来事であったが、その一方で、現在も議論が進められている特許に関する法制度の問題を改めて考えさせられることとなった。受賞者の1人である中村修二氏は、2001年に、研究員として勤めていた日亜化学工業を相手にLEDの発明に対する対価が少ないとして訴訟を起こした。この訴訟は元々、発明の帰属と、譲渡に対する補償についての訴訟で、その発明の技術的価値や経済的価値の大きさと、補償の金額が200億円という巨額なことから社会的な注目を浴びることになった訴訟でもある。裁判での日亜化学工業の主張は、①職務発明に関わる社内規定の適用により発明の特許を受ける権利は会社に承継されている、②会社とその従業員との間には黙示の停止条件付譲渡契約が存在する、③会社に提出した譲渡証により当該権利は会社に移転しているというものだった。これに対して中村氏側の主張は、①社長の業務命令によりLEDの研究を中止して高電子移動トランジスタを研究するよう命じられ、その命令に反してなされた研究から生じたもので職務発明ではない、②発明当時は会社も従業員も職務発明については、特許を受ける権利が発明者たる従業員に帰属することを知らなかったため、本件特許発明の特許を受ける権利を会社に譲渡する旨の意思の合致は存在しない、③対価の支払いが発明の価値に比して著しく均衡を欠くものである等であった。職務発明における権利の所在やその譲渡の対価については、特許法35条に規定があるが曖昧な部分もあり、その運用においては様々な問題を抱えていたのである。この裁判の論点は、本件発明が職務発明に該当するかということ、特許を受ける権利が会社に譲渡されていたかということであったが、職務発明であり、当該発明の権利は会社に適法に譲渡されたとの判断が下された。そして、最終的に、2005年に8億4千万円で和解が成立している。

職務発明とは、会社などの職務において研究をした結果として生み出された発明である。研究者と会社は雇用関係にあり、会社は研究者に給与を支払うことで研究者の生活を支え、研究のための設備や費用を提供するなどして発明を生むために大きな投資をしている。

特許法は、職務発明について、特許を受ける権利は発明者である従業者等に当然帰属するものとして、従業者等の権利を確保しながら、使用者等の職務発明成立についての寄与を考慮して、従業者等が特許を受けた時には、使用者等は、当該特許について実施料を支払わずにその発明を実施できる権利（通常実施権）を有するとして両者の利害を調整している。さらに、契約や勤務規則などにより、従業者等が職務発

明について使用者等に特許を受ける権利若しくは特許権を承継させ、又は使用者等のため専用実施権を設定したときには、従業者等は「相当の対価」の支払いを受ける権利を有する旨を定めて、従業者等を保護している。

前述のLEDの裁判は、2004年の特許法35条の規定が改正される前に起こったものだが、現行の特許法35条においても根本的問題が解決されているとは言えない。職務発明の特許を受ける権利は、原始的に従業者に帰属し、その権利を使用者である企業が譲り受ける場合には、「相当の対価」に従業者に支払うことが規定されている。そのために、発明者の従業者が使用者である会社に発明の対価を求める訴訟が2000年ごろから増え始め、味の素（請求額20億円）、キャノン（請求額10億円）、東芝（請求額11億円）等の会社を被告として訴訟が行われた。算定基準が不明確なままでの高額な対価の支払いは、会社にとってみれば偶発的に生じる危険な債務リスクの問題となる。このような状況の中で特許法35条の改正が行われた。

「相当の対価」について2004年の改正前の規定では、「その対価の額は、その発明により使用者等が受けるべき利益の額及びその発明がされるについて使用者等が貢献した程度を考慮して定めなければならない」としていたが、現行法では「契約、勤務規則その他の定めにおいて前項の対価について定める場合には、対価を決定するための基準の策定に際して使用者等と従業者等との間で行われる協議の状況、策定された当該基準の開示の状況、対価の額の算定について行われる従業者等からの意見の聴取状況等を考慮して、その定めるところにより対価を支払うことが不合理と認められるものであってはならない」と改正された。この改正により、職務発明に関わる規定の策定プロセスを重要視することで慎重な調整が行われ、「相当の対価」の問題を解決できると考えたのだろうか、依然として訴訟リスクの残る制度である。

平成25年6月に閣議決定された知財戦略案に職務発明の権利の帰属先を会社に変更する方針が盛り込まれており、平成27年度中に法改正が行われる可能性がある。背景には、高額な発明対価の支払いを避けたい企業側の要望がある。けれども、技術者の開発意欲をそぐ恐れがあり、研究者の海外流出を招くかもしれない。権利の帰属先を従業者ではなく使用者である会社とすることにより、会社は「対価」ではなく、自由裁量で決めることのできる「報酬」を払うことになる。職務発明規定が定められている国の多くは、特許を受ける権利を原始的に会社に帰属させ、会社は優秀な研究者を獲得するために魅力ある報酬制度を提案している。従業者の立場が弱いのが国で、同じような環境が整うのだろうか。中村修二氏は、ノーベル賞受賞が決まった後のインタビューで、職務発明の特許を「会社のもの」にする特許法改正には「猛反対する」と答えている。さらに、アメリカでは「科学者もみんなベンチャー企業を起こす。そういう機会が与えられている」と述べて、研究環境の違いを強調している。今後、予定されている特許法の改正は、研究者と会社の双方にとって望ましい利益の調整を行うことを可能とするのか、日本の将来にとって有益な制度と成るのかを注目したい。

## わたしの一冊——『定本 北條民雄全集』東京創元社版

文学部 国文学科 特任講師 荒井 裕樹

ときおり「作品よりも日記の方が面白い小説家」に出会います。言われた当人には甚だ迷惑な称号だとは思いますが、今回その無礼を働いてまで紹介したいのは、北條民雄という作家です。

北條は、1936年に「いのちの初夜」という中編小説で文学界賞を受賞し、1930～40年代前半に一世風靡しました。19歳の時にハンセン病を発病し、隔離収容されていた「第一区府県立全生病院」（現在の国立療養所多磨全生園）の中で創作に励んでいました。川端康成に才を認められて文壇にデビューし、わずか23歳の若さで没するまで、まるで生命の灯火をペン先に点すかのように原稿用紙に向かい、自分の過酷な療養体験に基づいた小説を書き続けました。かつてハンセン病は「らい病」と呼ばれ、患者や家族たちは大変な差別と偏見を被っていました。そのため北條の本名が公開されたのも、実に彼の死後77年を経た2014年のことでした。

私が北條民雄のことを調べだしたのは、彼が亡くなったのと同じ23歳の時。自分と同じ長さの時間を生きた人間が、人生のどん底を照らすような迫力の小説を書いていたことに衝撃を受けました。彼のことをもっと知りたくなり、多磨全生園に通っては、当時まだご存命だった北條の知人の話を伺ったりしました。それが私の研究者人生の始まりです。

北條民雄の全集は2種類刊行されています。死の直後に刊行された創元社版『北條民雄全集』（上下巻、1938年）。それを再整備した東京創元社版『定本北條民雄全集』（上下巻、1980年）です。これらの下巻には、北條が全生病院入院中に記した日記が収録されています。そこには医療者への不平不満、他の患者に対する悪口、自分の才能への疑念、進みゆく病状への恐怖など、彼の生々しい肉声が刻みこまれていて、絶望の淵に立たされた一人の文学青年のドキュメントとして大変読み応えがあります。東京創元社版の全集は付属図書館でも読めますので、ぜひ一度手に取ってみてください。

ただし、これらの全集に収録されている日記の1937年分に関しては、北條の直筆ではありません。実は彼の親友であった東條耿一（1942年没）によって筆写された複製本が底本になっています。北條自筆の日記は、東

條の手から実妹に託され、様々な変遷を経た後、現在は国立ハンセン病資料館に保管されています。

おそらく東條という人物は、親友の絶筆となる日記を手元に残しておきたかったのでしょう。北條の原稿をすべて送るように求めた川端康成に対し、原本が汚れていたために清書したという主旨の説明をしているのですが、現存する北條の直筆日記は大変保存状態も良く、汚濁の痕跡はありません。東條が親友の遺品を手元に残すために、おそらく虚偽の説明をしたのだと思われます。

これだけでも人間ドラマが渦巻いていて面白いのですが、更に興味深いのは、東條が北條の日記を正確に書き写していないという点です。全集に収録された日記（東條筆写本）と、北條の直筆日記を比べてみると、そこには東條の創作と思われる書き込みがいくつか見られるのです。そして書き込みの部分を丁寧に読んでいくと、東條のある意図のようなものが見えてきます。つまり、彼は後世の読者が『北條民雄全集』を読んだ際に、「東條耿一こそ北條民雄の最も親密な友人」と読めるような書き込みをしているのです。

関心のある方には以下の拙書をご紹介しますので、詳しくはそちらをご参照ください。北條民雄全集を手取るたびに、北條と東條という二人の文学青年の並々ならぬ友情を感じるような気がします。

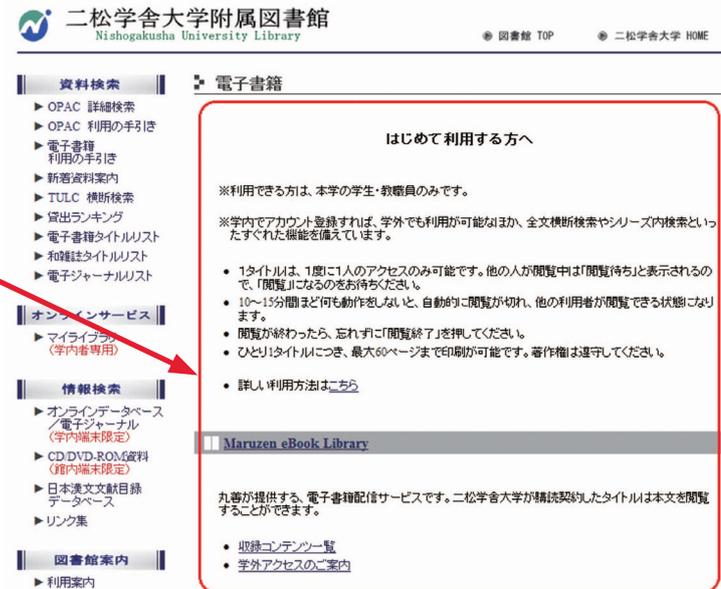
※荒井裕樹『隔離の文学——ハンセン病療養所の自己表現史』書肆アルス、2011年

電子書籍サービス開始

平成26年12月より、本図書館では電子書籍サービスを開始しました。本学の学生・教職員が利用できます。現在、辞書類や就活に役立つ書籍、漱石全集など合計213冊を取り揃えております。→①のように、トップページの電子書籍タイトルリストを押すと、閲覧可能な書籍が現れ、見たい図書の閲覧ボタンを押せば閲覧ができます。重い辞書を手に置かずに、パソコンの画面で一枚ずつめくることも、見たい所を指定することもできます。その他いろいろと活用できるはず！利用しない手はありません。

また→②のように「電子書籍利用の手引き」をクリックして見ていただくと、電子書籍の詳しい使用方法がわかります。閲覧するだけでなく、著作権の範囲内で最大60枚まで印刷できることもわかります。またどの本が入っているのかがわかる「収録コンテンツ一覧」、学外からでも閲覧できるための手順を説明した「学外アクセスのご案内」があります。こちらもぜひご覧ください。学外アクセスの登録をすれば、図書館に来なくても、お手持ちのパソコンやタブレットから電子書籍の閲覧が可能になります。

図書館入口前の掲示板には、先に触れた就活に役立つ電子書籍本のリストも用意しております。こちらもご活用ください。



### 柏市立図書館・市内4大学合同企画 知的書評合戦ビブリオバトル開催

前号で学内のビブリオバトルについての記事を掲載しました。11月8日（土）に、その学内予選優勝者の滝澤朋さんが標題のビブリオバトルに参加され、奨励賞を受賞されました。柏市立図書館と各大学からの参加者が紹介した本は、次の通りです。（★印がチャンプ本）

|          |   |
|----------|---|
| 柏市立図書館   | 『柿の種』（寺田寅彦著・岩波書店1996）   |
| ★日本橋学館大学 | 『新明解国語辞典（第4版と第6版）』<br>（※第4版：金田一京助他編集1989 第6版：山田忠雄他編集2005・三省堂） |
| 二松学舎大学   | 『日本人の神』（大野晋著・河出書房新社2013）                                      |
| 麗澤大学     | 『世に棲む日日』（司馬遼太郎著・文藝春秋2003）                                     |
| 東京大学     | 『構法クイズで原理を学ぶ 建築ディテール「基本のき」』（真鍋恒博著・彰国社2012）                    |

上記の図書は一部を除いて本図書館に所蔵しております。ぜひご一読ください！！

### 大学資料展示室リニューアルオープン

平成26年11月、大学資料展示室が2号館1階から1号館地下3階に場所を移し、リニューアルオープン致しました。最初の催しとして、企画展「論語と孔子」が12月初めまで行われました。オープン初日の11月15日は、『論語』の学校が開催されたこともあってか、多くの方においでいただきました。

また2月9日から、二松学舎に関連する資料を中心に展示をした常設展「資料で辿る二松学舎」も開催されました。常設展は企画展のない時期に開催されています。次の企画展は3月に「甲骨文」を開催予定です。表紙にあるような甲骨文関連資料が展示されます。是非ご高覧ください。



## 平成25年度 本学教員寄贈図書一覧（2012年11月1日～2013年10月31日出版）

| No. | 著・編著             | 書名                                     | 発行所           | 発行年月     | 価格(税別)  | 寄贈館  |
|-----|------------------|--|---------------|----------|---------|------|
| ①   | 菅原淳子[執筆]         | 変貌する権力政治と抵抗：国際関係学における地域                | 彩流社           | 2012年11月 | 2,800円  | 九段・柏 |
| ②   | 磯水絵<br>[ほか執筆]    | 今日是一日、方丈記：『方丈記』成立八〇〇年記念シンポジウム&コンサート資料集 | 二松學舎大学<br>文学部 | 2012年12月 | —       | 九段・柏 |
| ③   | 江藤茂博・<br>山口直孝[編] | 横溝正史の一九三〇年代：『鬼火』から『真珠郎』まで：特集（横溝正史研究：4） | 戎光祥出版         | 2013年3月  | 2,400円  | 九段・柏 |
| ④   | 江藤茂博・<br>山口直孝[編] | 横溝正史旧蔵資料（二松學舎大学所蔵）が語るもの：特集（横溝正史研究：5）   | 戎光祥出版         | 2013年3月  | 2,400円  | 九段・柏 |
| ⑤   | 高澤浩一[編]          | 近出殷周金文考釈 第二集（二松學舎大学学術叢書）               | 研文出版          | 2013年3月  | 6,800円  | 九段・柏 |
| ⑥   | 磯水絵<br>[ほか執筆]    | 論集文学と音楽史：詩歌管絃の世界（研究叢書：437）             | 和泉書院          | 2013年6月  | 15,000円 | 九段・柏 |
| ⑦   | 小山聡子[著]          | 親鸞の信仰と呪術：病氣治療と臨終行儀                     | 吉川弘文館         | 2013年8月  | 11,000円 | 九段・柏 |
| ⑧   | 改田明子[訳]          | 緩和ケアのコミュニケーション：希望のナラティブを求めて            | 新曜社           | 2013年10月 | 3,600円  | 九段   |
| ⑨   | 磯水絵<br>[ほか執筆]    | 今日是一日、方丈記                              | 新典社           | 2013年10月 | 2,000円  | 九段・柏 |

## 平成26年度 本学教員寄贈図書一覧（2013年11月1日～2014年10月31日出版）

| No. | 著・編著             | 書名  | 発行所  | 発行年月     | 価格(税別) | 寄贈館  |
|-----|------------------|---|--|----------|--------|------|
| ①   | 江藤茂博<br>[ほか執筆]   | 生きる力がわく「論語の授業」：史上最強の指南書をやさしく読み解く                                  | 朝日新聞出版                                       | 2013年11月 | 1,100円 | 九段・柏 |
| ②   | 谷口 貢[編著]         | 日本人の一生：通過儀礼の民俗学   | 八千代出版  | 2014年1月  | 2,300円 | 九段・柏 |
| ③   | 松本健太郎[著]         | ロラン・バルトにとって写真とは何か   | ナカニシヤ出版                                      | 2014年1月  | 3,800円 | 九段・柏 |
| ④   | 磯水絵・<br>小山聡子[編著] | 源平の時代を視る：二松學舎大学附属図書館所蔵奈良絵本『保元物語』『平治物語』を中心に（二松學舎大学学術叢書）            | 思文閣出版  | 2014年2月  | 4,800円 | 九段・柏 |
| ⑤   | 高澤浩一[編]          | 近出殷周金文考釈 第三集（二松學舎大学学術叢書）  | 研文出版   | 2014年3月  | 6,800円 | 九段・柏 |
| ⑥   | 長谷川日出世<br>[著]    | 基礎日本国憲法   | 成文堂  | 2014年3月  | 2,500円 | 九段   |
| ⑦   | 高山節也[編]          | 佐賀縣立図書館鍋島文庫蔵『芸暉閣經籍志』漢籍對照表：二松學舎大學日本漢文教育研究推進室「日本漢文資料による日本像構築の国際的研究」 | 二松學舎大學<br>東アジア學術<br>総合研究所日<br>本漢文教育研<br>究推進室 | 2014年6月  | 非売品    | 九段   |
| ⑧   | 中川 桂[著]          | 江戸時代落語家列伝（新典社選書66）  | 新典社  | 2014年6月  | 1,700円 | 九段・柏 |
| ⑨   | 多田一臣[編]          | 万葉語誌  | 筑摩書房   | 2014年8月  | 2,000円 | 九段   |

# 図書館だより

図書館カレンダー 開館日・開館時間は変更することがあります。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

## 九段図書館

3月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 |    |    |    |    |

■ 9:00~16:50

■ 閉館

4月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    | 1  | 2  | 3  | 4  |
| 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |    |    |

■ 8:40~21:50

■ 9:00~16:50

■ 閉館

5月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    |    | 1  | 2  |
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 |    |    |    |    |    |    |

■ 8:40~21:50

■ 9:00~16:50

■ 閉館

6月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
| 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 |    |    |    |    |

■ 8:40~21:50

■ 9:00~16:50

■ 閉館

## 柏図書館

3月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 |    |    |    |    |

■ 9:15~16:30

■ 閉館

4月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    | 1  | 2  | 3  | 4  |
| 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |    |    |

■ 9:15~17:00

■ 9:15~16:30

■ 閉館

5月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    |    | 1  | 2  |
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 |    |    |    |    |    |    |

■ 9:15~17:00

■ 9:15~16:30

■ 閉館

6月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
| 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 |    |    |    |    |

■ 9:15~17:00

■ 9:15~16:30

■ 閉館

※3/9(月)~13(金)は蔵書点検のため閉館(九段)。 ※4/29(水)は授業開講のため開館(九段)。 ※5/4(月)は授業開講のため開館(九段)。

## 柏図書館開館時間変更のお知らせ

柏図書館は4月より授業期平日の開館時間が9:15~17:00となります。是非ご利用下さい。

## 編集後記

季報91号をお届け致します。今号でもお忙しいところ3名の先生に寄稿していただきました。厚く御礼申し上げます。

電子書籍のサービス開始、大学資料展示室のリニューアルオープンなど、図書館の変化が続いております。温かく見守っていただければ幸いです。

二松学舎大学附属図書館

季報

第91号

発行日 平成27(2015)年3月1日

発行 二松学舎大学附属図書館

九段図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

電話:03-3263-6364

柏図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井2590

電話:04-7191-8758

印刷所 株式会社 サンセイ

電話:03-5227-8333